

プ ロ グ ラ ム

10:00~10:10 開会の挨拶 所長 小俣 篤

◆セッション1「生産性革命」

10:10~10:30 ICT 活用による建設生産性向上の取組
社会資本マネジメント研究センター長 清水 晃

10:30~10:50 海上輸送の構造変化に対応したコンテナ航路網予測手法の開発
港湾研究部長 藤井 敦

10:50~11:10 生産性革命に向けた道路交通分野の取り組み
道路交通研究部長 福島 真司

11:10~11:30 車両操作自動化技術等の空港運用への導入
空港研究部長 大山 洋志

◆ポスター展示

12:00~13:00 国総研の平成30年度の主な取り組みについて

◆特別セッション「防災・減災」

特別講演

13:00~14:00 ~進化する災害報道~ 命と暮らしを守る報道を目指して
NHK報道局災害・気象センター長 橋爪 尚泰

パネルディスカッション

14:15~15:45 大規模災害に対してどのように向き合うか
(コーディネーター) 土砂災害研究部長 山口 真司
(パネリスト) 下水道研究部下水道研究室長 岩崎 宏和
河川研究部長 天野 邦彦
土砂災害研究部深層崩壊対策研究官 桜井 亘
建築研究部長 福山 洋
沿岸海洋・防災研究部津波・高潮災害研究官 熊谷兼太郎

◆セッション2「防災・減災」

15:55~16:15 住宅・建築物におけるIoT、ICT、AI技術の防災・減災への展開
住宅研究部長 山海 敏弘

16:15~16:35 ピンポイント対策による密集市街地整備の促進
都市研究部都市防災研究室長 竹谷 修一

16:35~16:55 最近の道路災害の特徴と災害覚知技術の開発
道路構造物研究部長 木村 嘉富

16:55~17:00 閉会の挨拶 副所長 鈴木 弘之

◇開会の挨拶

所長 小俣 篤



◇講演者及び演題

特別講演

～進化する災害報道～ 命と暮らしを守る報道を目指して

NHK報道局災害・気象センター長 橋爪 尚泰



<プロフィール>

- ・平成2年にNHKに記者として入局。平成7年より報道局社会部にて気象庁、旧建設省、内閣府防災等を担当し、気象災害を専門に取材。その後、仙台放送局放送部専任部長等を歴任し、平成29年より現職。
- ・そのほか、内閣府中央防災会議防災対策実行会議のワーキンググループの委員や気象庁の検討会の委員等を務める。
- ・取材した主な災害
阪神・淡路大震災（平成7年）、長野県小谷村土石流（平成8年）、台湾集集地震（平成11年）、三宅島噴火災害（平成12年）、韓国地下鉄火災（平成15年）、新潟県中越地震（平成16年）、東日本大震災（平成23年）

パネルディスカッション



大規模災害に対してどのように向き合うか

(コーディネーター)	土砂災害研究部長	山口 真司
(パネリスト)	下水道研究部下水道研究室長	岩崎 宏和
	河川研究部長	天野 邦彦
	土砂災害研究部深層崩壊対策研究官	桜井 亘
	建築研究部長	福山 洋
	沿岸海洋・防災研究部津波・高潮災害研究官	熊谷兼太郎

一般講演

ICT 活用による建設生産性向上の取組

社会資本マネジメント研究センター長 清水 晃



3次元モデルをより一層活用するための研究など ICT を活用した生産性の向上に向けた取組を紹介した。また、公募が行われ、試行されている IoT・AI をはじめとする新技術導入プロジェクトを紹介した。

海上輸送の構造変化に対応したコンテナ航路網予測手法の開発

港湾研究部長 藤井 敦



超大型コンテナ船の導入や、新パナマ運河の供用、北極海航路の商業利用の進展など、国際海上コンテナ輸送を取り巻く環境は大きく変化している。このような環境変化に対応した、将来のコンテナ航路網予測手法の開発について紹介した。

生産性革命に向けた道路交通分野の取り組み

道路交通研究部長 福島 眞司



道路交通分野におけるビッグデータの活用と自動運転を中心に、国総研で取り組んでいる道路交通マネジメントに関する研究開発や実証実験等について、国土交通省の生産性革命プロジェクトとの関係を含め、現状と今後の可能性について紹介した。

車両操作自動化技術等の空港運用への導入

空港研究部長 大山 洋志



観光ビッグバン時代の本格到来を迎え、外客の受け皿となる空港機能の充実が求められる一方で、空港運用に係る労働力減少という課題が顕在化している。このような状況に対応するため、車両操作自動化技術等の空港運用への導入について、最新の研究動向を紹介した。

住宅・建築物におけるIoT、ICT、AI技術の防災・減災への展開

住宅研究部長 山海 敏弘



住宅・建築物におけるIoT、ICT、AI技術の防災・減災領域への展開可能性について紹介した。さらに、IoTを有効活用する上で重要な役割を占めることが想定されるエネルギーハーベスティング技術の開発・導入状況について紹介した。

ピンポイント対策による密集市街地整備の促進

都市研究部都市防災研究室長 竹谷 修一



密集市街地の整備に際しては、地区全体の改善を進めるとともに、改善効果が高い箇所を集中的に改善することも必要である。効果的な改善箇所の抽出や効果の把握方法を中心に、密集市街地整備に関する研究成果を紹介した。

最近の道路災害の特徴と災害覚知技術の開発

道路構造物研究部長 木村 嘉富



平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震、台風24号等、最近の災害における道路構造物災害の特徴を概観した。また、そのような災害に早期に対応するための災害覚知技術の開発状況を紹介した。

◇閉会の挨拶

副所長 鈴木 弘之

